

皆さま、講師研究会でお世話になりました館野です。講師研修会にご参加いただきありがとうございました。研修会で学んだ内容を、ぜひみなさまの講習の中で活かしていただきたいと思います、これから6回にわたって、研修内容を思い出すような「問いかけ」を行います。

この「問いかけ」をもとに、テキストを復習していただき、研修に活かしていただければと思います。

【6つの問いかけ】

1. 「研修」の定義を覚えていますか？
 2. 「とりあえず新しい方法を取り入れればよい」という状態になっていませんか？
 3. 「最初の7分間」に集中していますか？
 4. 「参加者の状態」を把握しようとしていますか？
 5. 「グループワーク」を効果的にするための工夫をしていますか？
 6. 「振り返り」を効果的にする工夫をしていますか？
-

6. 「振り返り」を効果的にする工夫をしていますか？

研修の最後に「振り返り」の時間を取り入れることは有効です。それは、研修で学んだことを現場に持ち帰ってもらう上でも非常に重要です。

ではどのように振り返りをすればよいのでしょうか？「今日学んだことを10分なんでもいいから話してください」というだけだと、期待した学習効果を得ることはできません。

よい振り返りの場をつくるためには、以下の4つの条件が必要です。

1. **Focus&Future**：焦点が絞られていて、未来に開かれている
・半年後の・・・について・・・の観点から考えましょう

2. Time : 時間の意識を大切に

時間が短いと振り返りはできないし、長すぎてもだめ。(10分～30分が目安?)

3. Semi open な問い : ある程度開かれた問いに

答えがすぐでるような問いや、どちらかを選ぶだけのような議論では盛り上がらない

4. Taiwa openness : 対話に開かれているものにしましょう

共通の体験があるようなものを議題にすることで、はじめて盛り上がる

こうした振り返りをした上で、研修で学んだことを現場に活かしてもらうためにはさらにどんな工夫が必要でしょうか?

ポイントその1は「やればできる」という自己効力感を持ってもらうことです。研修の最後に「苦しさ・しんどさ」がくるような設計になると「やる気」を失ってしまいます。痛みの部分は研修の「中盤」に入れ込み、最後は「明るく前向きになにかを変えたいくなる」かたちで終わらせましょう。

ポイントその2は「逆戻り予防」の時間を取るということです。研修のときはよかったけれど、現場に戻るとあっという間に元に戻ってしまうということをよくあります。それを防止するために以下の3つが大切です。

1. 職場に戻った後のプレビュー : 逆戻り現象が起こりやすいことを理解する
2. 自己分析 : 自分にどのようなサポートが必要か、どのような場面にこの知識が使えるかを考えてもらう
3. 逆戻り防止の対策を考える : 職場に戻ったらだれに対してどう働きかけるかを考える

こうしたことを研修内で考えてもらうだけではなく、研修後に「メッセージ」

を送ることも有効です。この文章自体がまさにその役割をしています。

「研修で学んだことを業務に活かしていますか？」という簡単な評価を送ると、研修で学んだことが仕事で活かされやすくなるそうです。

今回お送りさせていただいた6つのメールも、全て「講師研修会」での学びを講習に活かしていただきたいという思いで実施しています。「講師研修会」の際も、みなさま非常に熱心に講習をされている様子が伝わってきましたので、ぜひ講習がよりよい場になることを願っています。